

## 荒井 悠貴氏

調査日 令和7年6月（就農後8年目）

所在地 東かがわ市小砂

経営主 荒井 悠貴

主要事業 露地野菜、施設野菜、水稻

主要作目 青ネギ 200a  
 水稻 70a  
 サトウキビ 10a  
 タカミメロン 5a

就農タイプ 新規就農（非農家出身）

就農時期 平成30年

労働力 家族 3名（本人、父母）  
 常時雇用 1名  
 臨時雇用 2名

## ヒストリーあらすじ

・荒井悠貴氏は非農家出身で、学校卒業後は建設業に勤め、会社の農業体験で行ったブロッコリーの収穫作業をきっかけに、地元の農業に目を向け、就農への思いが高まった。

・経営計画を検討した結果、青ネギは市内に生産者が多く、小面積でも収量が見込める上、周年で収穫できることから、これを主力にやっていけないのではないかと考えた。

・農業経験も農地もなかったため、JAインターンにより先進農家に学びながら、農業委員や農地集積専門員の協力を得て農地を借りる準備を進め、平成30年に農地95aで経営を開始した。

・就農後も、天候や病害虫の対策に苦心し、部会や地域の先輩農家、関係機関から学びながら工夫と研鑽に努めた。香川県野菜立毛品評会では栽培管理技術が評価され、R5年度に 県農政水産部長賞、R7年度に農林水産大臣賞を受賞した。

・現在は地域内外の農地を借り入れ、作付面積は約2ha、主力の青ネギは年間約30トン収穫している。施設野菜や緑肥ヒマワリも取り入れながら、経営の安定化を目指している。

・令和4年には、さぬき讚ベジタブルの認定生産者となり、同年から東かがわ市の農業委員に就任。身近な相談役として3年間活動した。令和5年には認定農業者を取得した。

エッセンス	
● 当たり前のことを 当たり前にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術を磨き、良いものを出荷し続けることが信頼につながる。</li> <li>・農業は天候に左右されるが、工夫と挑戦で、できる対策は全部やりたい。</li> </ul>
● 地元農業委員への 就任経験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就農4年目に農業委員の話をいただき、そこから農業委員会の役割や農地法等を学んでいった。</li> <li>・地域計画づくり等の活動を通じて地域の農地状況を実感し、知見が広がった。</li> </ul>
● 仲間・地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲の協力で就農できた。今後も仲間と切磋琢磨しながら、地域に認めもらえるような農業に取り組んでいきたい。</li> </ul>

細やかな栽培管理で良質な青ネギを届けます。



主力作物・青ネギ（拡大中）



緑肥・景観ヒマワリ畑



荒井 悠貴 氏



稲作



タカミメロン（ハウス内の様子）



# 荒井悠貴氏 ヒストリー<課題と対応策>

就農前	就農期 平成30年～	確立期 令和5年～	発展・将来展望 令和7年～
<p><b>●建設業に従事。農業に興味。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元で農作業を手伝った経験から、就農を本気で考え出した。青ネギを主力に決め、経営計画を練って決心が固まった。</li> <li>・非農家出身で、農業経験はほとんど無く、JA香川県のインターン制度に応募。</li> <li>・平成29年から、先進農家(S氏)の元で農家の基礎を学ぶ。青ネギ、水稻の栽培管理は後々まで実践で役立った。</li> </ul>	<p><b>●就農開始</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年4月、認定新規就農者に認定。</li> <li>・JA青ネギ部会の一員となり、農地95aで、青ネギ、ブロッコリー、水稻を栽培開始。</li> <li>・初期投資を抑えるため、中古トラクターを購入し、皮むき洗浄機はJA助成事業を活用した。</li> <li>・第1期で繁忙期の作業の段取り、優先順位付けの難しさ、労働力不足を感じた。</li> <li>・さらに規模拡大したかったが、生育不良のほ場も出たため、作業の効率化が喫緊の課題になった。</li> </ul>	<p><b>●技術の研鑽</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年9月、認定農業者に認定。</li> <li>・猛暑に強い丈夫な青ネギ作りが課題。土壌の栄養バランスに注意し、夏の高温には、白マルチの活用や畝間灌水等で対策し、生育適温に近づくよう工夫してきた。(受賞歴)</li> <li>・香川県野菜立毛品評会(青ネギ)令和5年度「県農政水産部長賞」受賞 令和7年度「農林水産大臣賞」受賞</li> <li>・農地のこまめな見回りで変化に気づくことと、日頃の周辺環境の適切な管理が重要と考えている。</li> </ul>	<p><b>●地域の活性化への取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直接顧客へ届ける直販活動の充実。</li> <li>・「おおちアグリビジネスクラブ」の一員として小学生の田植え・収穫体験や地元イベント等への積極的な参加。</li> <li>・ビール醸造家と協力し、タカミメロンを使ったクラフトビール試作。</li> <li>・地元の青ネギ産地を盛り上げていけるようInstagram等SNSも活用し、発信力のある農家を目指したい。</li> </ul>
<p><b>●自営就農を目指して(農地確保)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修と同時に、農地の確保に走り回った。農業委員や農地集積専門員の情報を基に就農開始までに、必要な面積を確保できた。</li> <li>・最初から農地を集積させるのは難しかった。遊休農地の中には条件不利地もあり、水やりの不便や排水の悪さ、前作付が何かなど、現場で見てもわからないことも多かった。</li> </ul>	<p><b>●新品目の導入、雇用を開始</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中古ハウスを取得し、メロン栽培を開始。</li> <li>・就農3年目に、JAのアグリワークを通じて常時雇用を1名増やした。</li> <li>・作業が分散した上、雇用活用により、収穫作業が効率化し、面積拡大が前進した。</li> </ul>	<p>・青ネギの作付けローテーションの中に、緑肥ヒマワリやソルゴー、水稻栽培を加えることで安定経営を目指している。</p> <p>・水稻用コンバインや乾燥機は無く、収穫は作業委託のため所得率は低いですが、土作りと農繁期の作業分散を優先している。</p>	<p><b>●将来に向けたチャレンジ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「みどり認定」の取組み</li> <li>・青ネギ栽培では、化学肥料・化学農薬の削減や土づくりを一体的に実施することは難しいが、フェロモン剤などを利用し、化学農薬だけに頼らない、環境にやさしい防除方法の取組みに挑戦したい。</li> </ul>
<p>・就農初期は、地元の農地を中心に借りていたが、徐々に地域外にも目を向けるようになり、今は地域内外で経営面積を拡大している。</p>	<p><b>●販路の拡大に取り組む</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年、さぬき讃ベジタブル認定生産者として更なる品質向上と販路拡大に挑戦。</li> <li>・主な出荷先:JA、県内飲食店、産直市場、ふるさと納税(メロン)</li> <li>・飲食店への納品は、少量・不定期配達となり負担が大きかった。直接顧客へ届ける販路を増やしたいが、販路拡大は検討中。</li> </ul>	<p><b>●農業委員として活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4～6年にかけて、農業委員として地域活動に取り組んだ。</li> <li>・当初不安もあったが、勉強の機会が増え、地元の課題や農地法についてなど勉強になった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就農した7年前と比べ、近年の気温上昇や雨量等の天候の影響で、栽培のしやすさが変わり、多くの対策が必要になっている。</li> <li>・経営者として、どんな環境変化にも応じられるよう、さらに技術を磨き、安定経営を確立していきたい。</li> </ul>